短　報

金大医短紀要
Vol. 17　181～186
1993

看護学生の行動特性と性格特性の関連について

河村　一海*　土屋　尚義**　金井　和子**　西村真美子*

KEY WORDS

Type a behavior pattern, Behavior characteristic, Personal characteristic, Jenkins activity survey

はじめに

看護学生にとって病院での臨床実習は避けられないものであり，実習終了時の達成感や充実感を学生に与えるためにも，実習指導は教官の大きな役割である。学生の行動特性を事前に分析し実習を通してどのように行動変容がなされたか分析することは，実習の教育的効果の評価に有効であると考えられる。

今回看護学生がどういう行動特性をとるかを明らかにし，また外面で現れている行動特性が内面で生じている性格特性とどのうように関連しているかを検討した。

研究方法

1．対象

対象は，K大学医療技術短大看護学科学生143名（全員女性）であり，うち1年生は73名（18～19才），2年生は70名（19～20才）であった。

2．測定用具

測定用具はJenkins Activity Survey (Student Version)（同志社大学心理学研究室翻訳版）（以下JASと略す）[1)2)3)]と，我々がM－Gテスト（本明・ギルフォード性格検査）（教研式）[4)]の性格特性を参考に作成した性格の自己評価の質問票（図1，以下MG変法と略す）を使用した。

JASは学生の行動特性を分析するために用いた。この質問紙にはタイプA行動パターン[5)]の有無を判別するAB尺度，精力的あるいは競争的な行動特性を測定するH尺度，行動の速さや気短さを測定するS尺度の3つの尺度が設けられており，それぞれの尺度の得点可能範囲は0点～21点，0点～34点，0点～42点である。

MG変法は学生の性格特性を分析するために用いた。今回は学生にとって好ましい性格特性を高い得点としたため，攻撃性（Ag）は非攻撃的，神経質傾向（N）は神経質でないを，抑うつ性（D）は陽気を，劣等感情（I）は劣等感情なしを高得点とし，それぞれ4段階の評価を行った。

3．方法

調査は無記名留め置きで依頼し，回収は学年担任に一任した。期間は平成4年11月～12月である。

行動特性と性格特性の関連についてはt検定を用いて検討した。

またJASのAB尺度に関しては，過去に佐藤ら[1)]が大学および専門学校一般学生を対象に行った成績と一部比較し，看護学生の特徴を抽出した。

結　果

1．JAS各尺度の結果

JASの各尺度の平均点および標準偏差（以下SD）はAB尺度が4.01±2.43，H尺度が8.71±4.09，S尺度が12.46±5.36であり，どの尺度においても低く，過去の佐藤ら[1)]の報告とほぼ同様の値を示した（図2）。

*　金沢大学医療技術短期大学部・看護学科

**　千葉大学看護学部

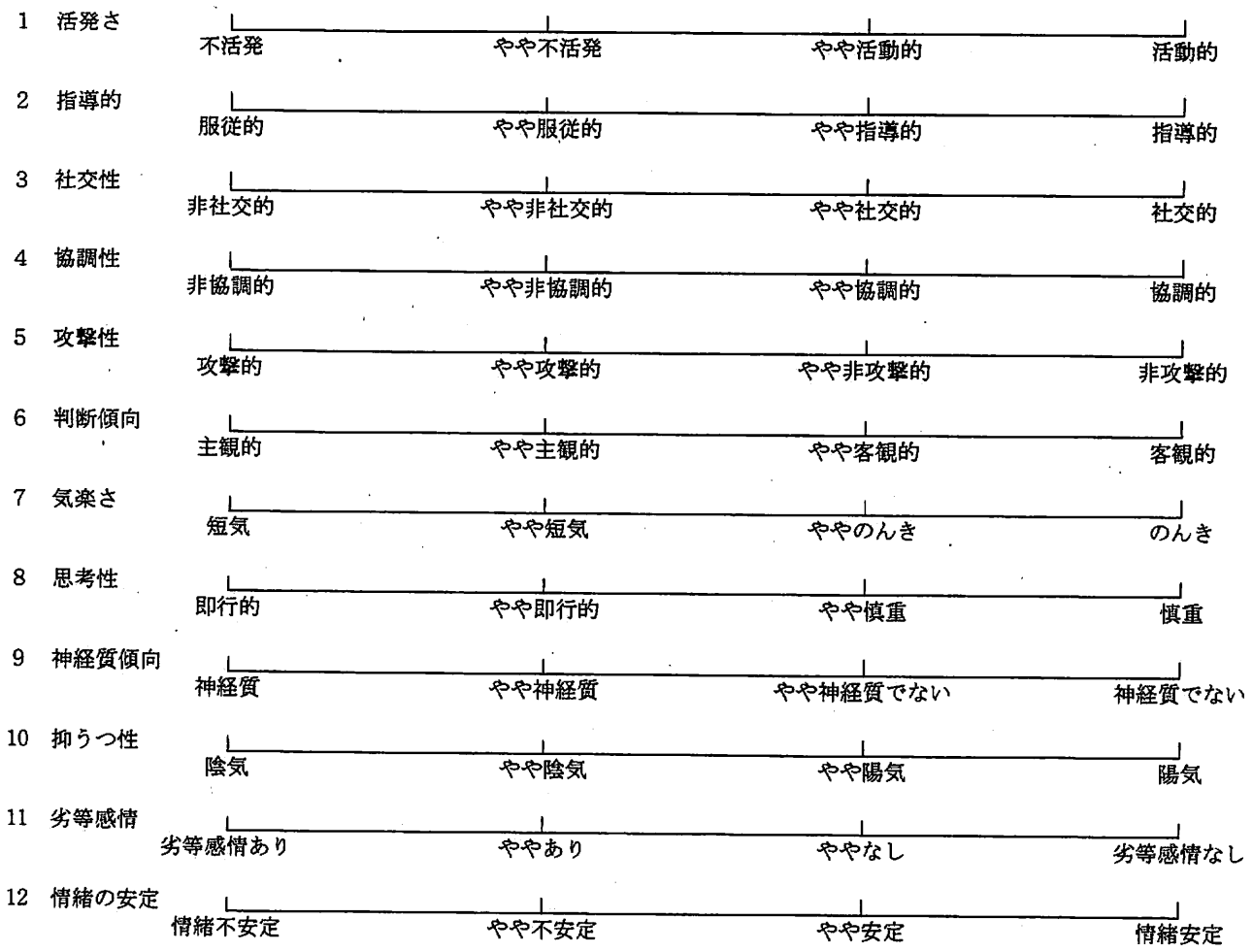


図１　自己評価の質問紙の各性格特性と評価段階

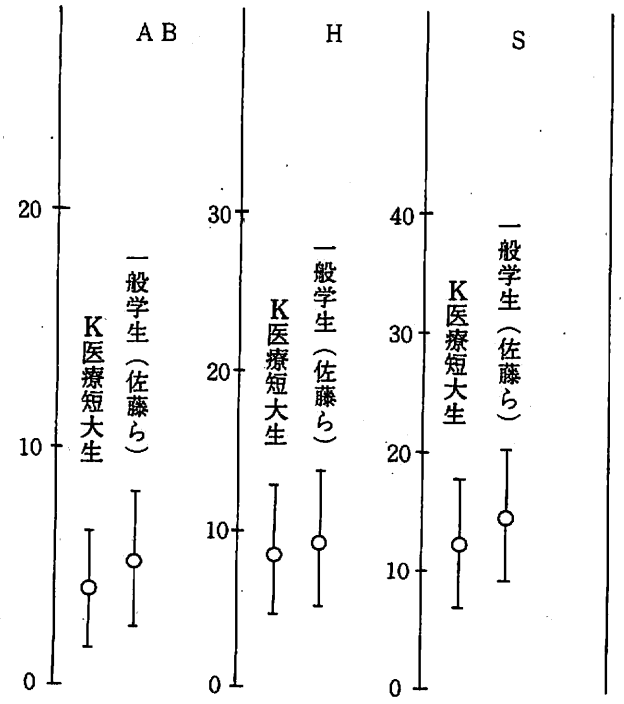


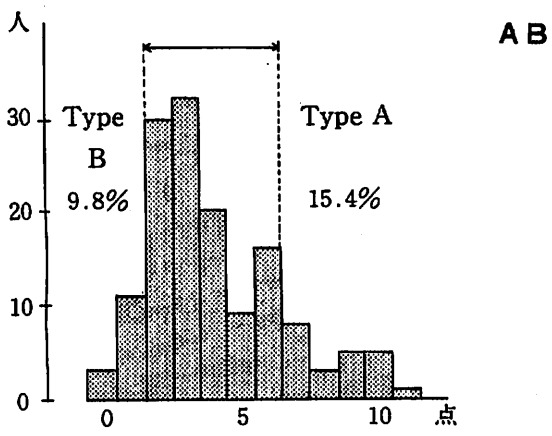
図２　JAS 各尺度得点

得点の人数分布では，今回の対象ではどの尺度もやや左寄りの山型を形作っており，高得点を得た被験者が少ない負の歪みを示していた（図３）。

AB 尺度において平均点から＋SD 以上の群をタイプＡとし，冠状動脈疾患にかかりやすい行動特性をもつものとした。また－SD 以下の群をタイプＢとし，タイプＡと反対の行動特性をもつものとした[3]。これらはそれぞれ15.4%，9.8%で佐藤ら[1]の結果と比較すると今回の対象は，タイプＢの割合が少なかった（図３）。

H 尺度では，＋SD 以上の高得点群すなわち精力的，競争的な行動特性をもつものは19.6%，反対の－SD 以下の低得点群は16.1%だった（図３）。

S 尺度では，同様の高得点群すなわちじっとしていることが嫌いでせっかちといった行動特性をもつものが15.4%，反対の低得点群は18.9%だった（図３）。

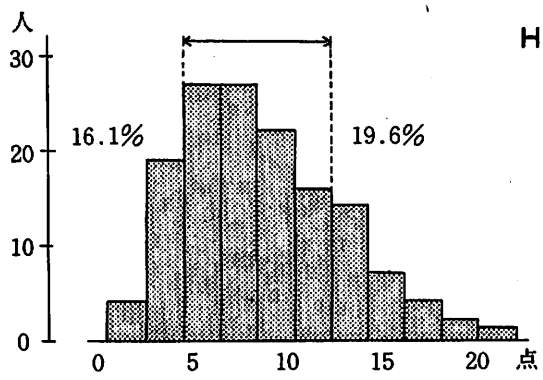


2．MG 変法の結果

各特性の平均点および標準偏差は協調性（Co）が3.06±0.65，抑うつ性（D）が2.86±0.73と比較的高値，指導性（A）が2.28±0.70，劣等感情（I）が2.30±0.76と比較的低値だった（図4）。これは自分の性格を協調性があり，服従的であると評価している学生が多いことを意味している。

3．JAS 各尺度と MG 変法の関係

JAS 各尺度の高得点群と低得点群を対比して各性格特性の特徴を検討すると，AB 尺度ではタイプ A が活発さ（G），指導性（A）で，タイプ B が思考性（T），気



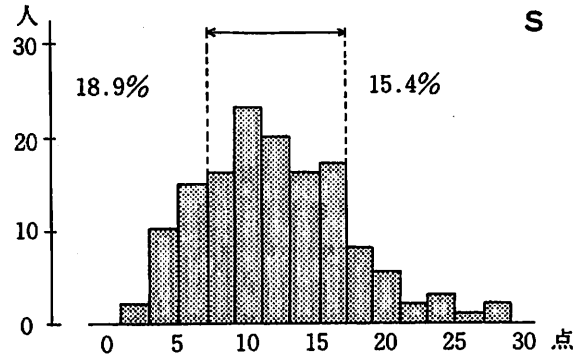


図3　JAS 各尺度得点の分布

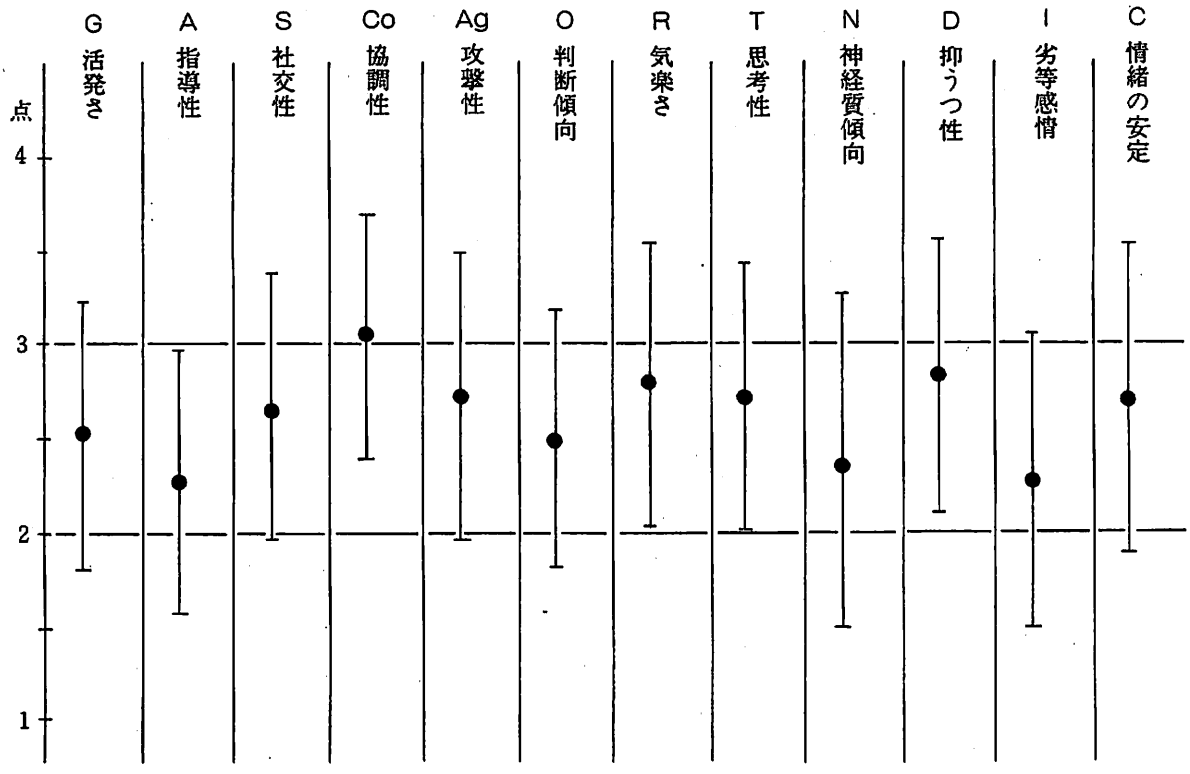


図4　性格特性得点

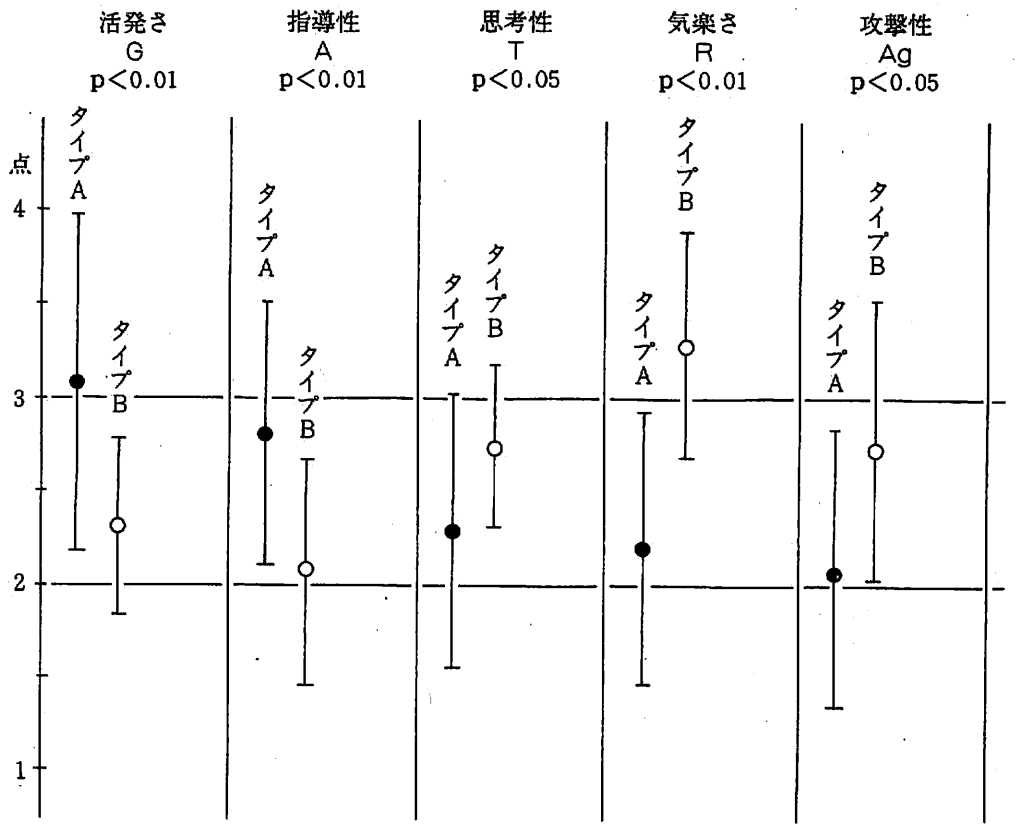


図5　タイプA, タイプBの性格特性

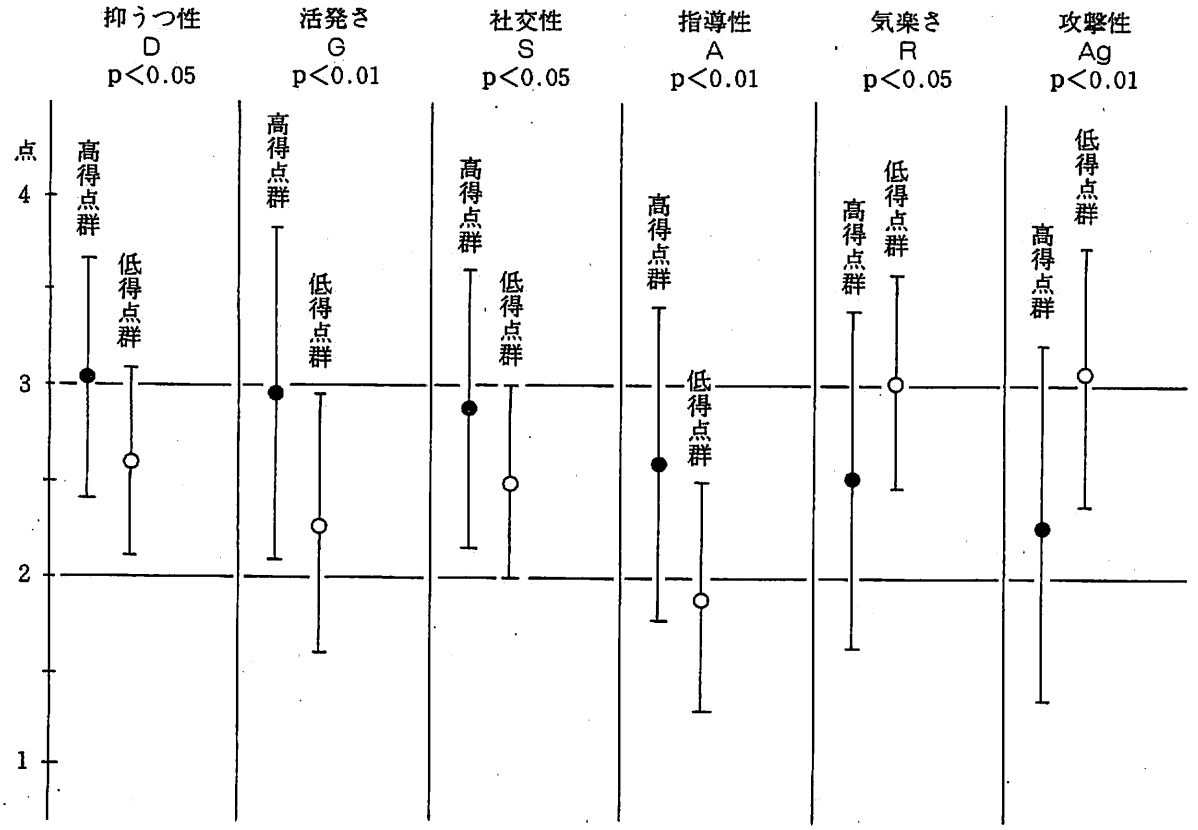


図6　H尺度高得点群，低得点群の性格特性

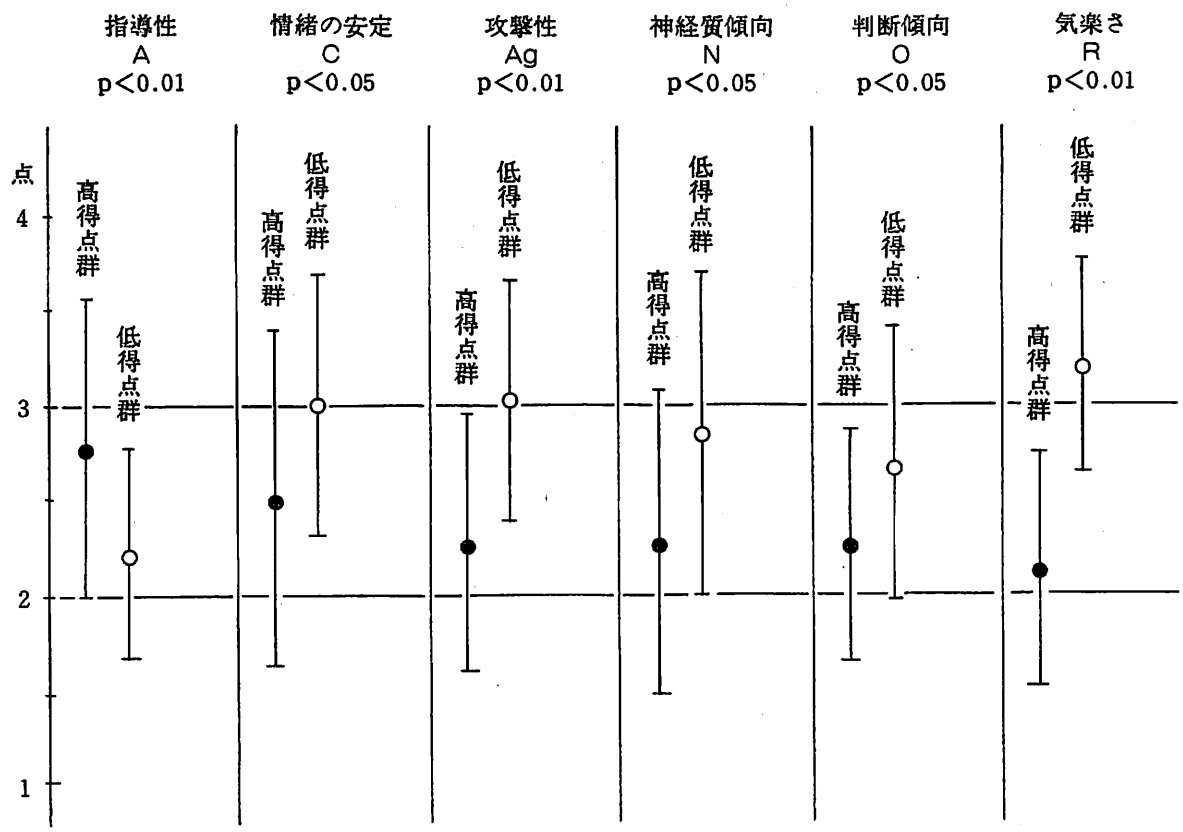


図7　S尺度高得点群，低得点群の性格特性

軽さ（R），攻撃性（Ag）で高い得点であった（図5）。これはJASタイプAすなわち時間的切迫感が強く，熱中，緊張し易く，几帳面で勝ち気といった行動傾向のものは，反対のタイプBに比し，活動性が高く指導力を有するが，短気でおおざっぱ，攻撃的であったことを示している。

H尺度では抑うつ性（D），活発さ（G），社交性（S），指導性（A）は高得点群で，気軽さ（R），攻撃性（Ag）は低得点群で高得点だった（図6）。これはH尺度の高得点群すなわち精力的で競争的な行動特性をもつ者は，社交的，世話好き，楽天的という性格特性であったことを示している。

S尺度では，同様に指導性（A）は高得点群で，情緒の安定（C），攻撃性（Ag），神経質傾向（N），判断傾向（O），気軽さ（R）は低得点群で高得点だった（図7）。これはS尺度の高得点群すなわちじっとしていることが嫌いでせっかちといった行動特性をもつ者は，興奮しやすく心配症，感情的，気まぐれという性格特性であったことを示している。

AB尺度とH尺度の両方で有意差を認めた性格特性は，G, A, R, Agとなり，TはAB尺度にのみ，D,SはH尺度にのみ有意差を認めた特性だった。

AB尺度とS尺度の両方で有意差を認めた性格特性は，A, Ag, Rとなり，G, TはAB尺度にのみ，C, N, OはS尺度にのみ有意差を認めた特性だった。

考　察

JASは，従来冠動脈疾患患者のタイプA行動パターンを測定する目的で使用されていたものであるが，本研究では看護学生の行動特性を分析するという目的で使用した。その結果より，JASを使用することにより各学生の行動特性の予測が可能であり，さらにこの行動特性は学生が自己評価した性格特性の一部と密接な関係を有することが示された。

JASの妥当性については過去に佐藤らが項目分析，因子分析の結果よりJASが日本人大学生に対しても適用可能な質問紙であることを報告しており[1]，また他の標準化された性格検査との関連から構成概念妥当性や交差妥当性についても報告している[2]。

これらの報告内容より，看護学生を対象に行った今回の調査でもJASは使用でき，今回の結果の信憑性が証明できると考えられる。

本学では3年次に1年間かけて病院での総合実習を行っており，今回の対象は実習前の状態とみなすことができる。

そこで今回の課題として総合実習後の行動特性を分析し，性格特性との関連を検討してみることも必要であろう。

また今回は学生の実習前の自己に対する主観評定のみでの分析であったので，今後は客観評定の方法も考慮していく必要があると思われる。

まとめ

看護学生の臨床実習指導に生かすため行動特性と性格特性を調査し，以下のようなことがわかった。

1．JAS各尺度の平均点はいずれも低く高得点を得た被験者が少なかった。

2．自己評価による性格特性として，自分の性格を協調性があり，服従的であると評価している学生が多かった。

3．JASとMG変法の関係から，JASタイプAはタイプBに比し，活動性が高く指導力を有するが，短気でおおざっぱ，攻撃的であった。またH尺度の高得点群は，社交的，世話好き，楽天的という性格特性であり，S尺度の高得点群は，興奮しやすく心配症，感情的，気まぐれという性格特性であった。

本対象ではJAS各尺度の高得点群と低得点群ではMG変法の結果に差を認めた。つまり行動特性は自己評価上の性格特性と特徴的な関係を有することがわかった。

従来は一部の疾患における行動の意味や環境の影響をみて患者への心身総合的援助のために用いられていた行動学的アプローチを今後学生の教育，指導への糧としていきたいと思っている。

文　献

1）佐藤　豪　他：Jenkins Activity Survey (JAS) 学生用の検討（項目分析と因子分析による検討）．札幌医大人文自然記，23：15-23，1982.

2）佐藤　豪　他：Jenkins Activity Survey (JAS) 学生用の検討（Ⅱ）（他の性格検査との関連性について）．札幌医大人文自然記，24：17-24，1983.

3）黒田聖一　他：タイプAの人格特性と認知的防衛．心身医学，第30巻第5号：494-498，1990.

4）本明　寛　他：本明・ギルフォード性格検査　性格診断プロフィール，各特性の行動特徴．日本図書文化協会.

5）前田　聰：タイプA行動パターン．心身医学，第29巻第6号：517-524，1989.

The relationship between behaviri characteristic
and personal characteristic for student of nurse

Kazumi Kawamura, Takanori Tsuchiya, Kazuko Kanai, Mamiko Nishimura